

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成25年11月29日現在

## 今月の重点活動

### ■いちご **ハウス内環境の改善を工夫**

いちごハウス内の環境を改善して、安定的に収量を向上させるため、農業普及課では、ハウス内環境制御技術の導入を行っており、第1段として、適正に温度が測れる、通風筒温度測定装置の作成講習会を各地で開催した。第2段として、光合成促進装置を効率的に使用するための、コントローラーを高設栽培者を中心に導入し、さらなる生産性の向上を図るため、研修会などで技術の普及を行った。



【装置作成講習会の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■アスパラガス **休眠準備**

収穫も終了し、農業普及課では、ハウスを開放させて冷気を取り込み、休眠促進すなわち黄化を促進させている。休眠を促進させることにより、貯蔵根に十分に養分を転流させることができ、次年度の高収益を図る重要な作業として指導を進めている。



【徐々に休眠に向かっている株】

## 売れる農畜産物づくり

### ■水稲 **平成26年度の水稲栽培暦を検討**

10/22 J A ぎふアグリパークでJ A、全農県本部、農林事務所の関係者が集まり26年産水稲の栽培暦について検討を行った。本年はオリサストロビン剤耐性いもち病菌が他県で出現したが、本県では未検出で紋枯病も同時に抑えられるこの薬剤の有効使用を確認した。また、ハツシモに見られた靱枯細菌病の次年度対策として、薬剤選定の検討や育苗管理研修会で周知徹底することを確認した。

### ■ほうれんそう **出荷本番を前に目揃会開催**

10月下旬から、則武・島・合渡管内で目揃会が開催された。9月中旬から10月上旬にかけての干ばつの影響により、前半は生育が遅れ出荷量が少なかったが、現在は生育順調。病虫害防除の徹底を呼びかけている。

### ■だいこん **祝大根生育遅延**

10月12日～16日までに播種が計画的に実施され順調に発芽したが、その後台風や豪雨、日照不足などの影響により、生育は最も遅れた昨年並みに本年度も遅延している農業普及課では、圃場の生育調査に基づき、速報を2回配布し、追肥や保温による生育の回復を促した。

### ■ニンジン **出荷開始**

各務原市では、ニンジンや里芋の出荷が始まった。また、その一方で、白菜、かぶ、大根の出荷は終盤となっている。ニンジンは例年より若干早い出荷であるが、降雨が断続的にあるため、土壌が乾かず収穫作業に苦労している。農業普及課は、目揃え会において、今後の栽培管理と規格の順守を呼びかけている。

### ■柿 **富有柿の選果指導を徹底**

富有柿が本格出荷となったが、10月の高温、多雨の影響で着色が遅れた上に、へたすきなど下位等級品が増加し、各地の選果場では正品（規格品）の出荷が少ない状況である。出荷ピークは11月下旬を見込み、今後の出荷量の増加を期待している。各地区柿振興会は栽培初心者を対象に柿の収穫適期と選果方法の研修を行った。農業普及課は家庭選果の基準を柿の写真スラ

イドで示すなど具体的に説明して家庭選果の徹底を指導した。

## 戦略的な流通・販売

### ■花き 種苗登録支援

岐阜市内の花き生産者が育成したビデンス2品種、ユリオプス1品種の種苗登録に向けて、農業普及課では申請書類の作成指導、特性表の作成等について指導した。オリジナル品種の育成は今後大きな武器となることから引き続き支援を行う。



## 多様な担い手の育成・確保

### ■指導農業士 経営訪問研修会開催

岐阜地域指導農業士連絡協議会では、会員の生産ほ場等を訪問し、経営状況等について学び連携を深めるため、11月12日に経営訪問研修会を開催した。今回は、本巣市の花き、野菜を生産する会員2名のほ場のほか、農業技術センターの花き、野菜試験研究状況について視察を行った。参加者は、販売戦略に基づいた栽培体系や作業体系について、熱心に質問し、刺激を受けるなど有意義な研修となった。



【視察時の様子】

### ■女性農業経営アドバイザー 岐阜市農業委員と意見交換会

11/15に岐阜市農業委員会主催で意見交換会が開催され、岐阜市のアドバイザー8名が出席した。農業普及課は県の担い手リーダーの認定や役割など制度を説明し、アドバイザーはこれまでの活動を紹介した。農業委員は食育についてや後継者問題などの質問をし、アドバイザーがそれに答えるなど、農業で頑張っている女性の存在を大いにPRできたと感じている。



【意見交換会の様子】

### ■タマネギ 定植開始

アグリ石神では、10/28に極早生品種の3月出荷向け（ハウス・直売用）の、11/8から早生・中生の加工用タマネギの定植が始まった。使用を進めてきたシーダーテープによる播種も好評で、生育の揃った苗に仕上がった。また、去年は周期的な降雨により、ほ場準備が遅れた経過を踏まえ、天候の良い10月上旬には畝立て・マルチ張作業を終わらせる等、定植の準備を進めてきたことも良好な結果を生んだ。例年、タマネギの定植時期は小麦の播種作業と重なるため、どちらかの作業が遅れがちになるリスクがあったが、今年は計画的に定植作業を終えることができた。農業普及課では、今後のほ場管理として除草体系の調査・検討を行う予定。



【定植作業の様子】

## 県民みんなで育む農業・農村

### ■柿 親子で収穫体験を実施

瑞穂市柿振興会は11/17に収穫体験会を開催した。瑞穂市内の小学生親子20名が参加し、収穫・選果、そして試食を行った。農業普及課は、柿の栽培や出荷状況を説明し、参加者の柿への関心を高めるよう努めた。今年の柿は甘くて食味が良く、試食は好評であり、来年も参加したいと、リピーターが期待できそうであった。



【柿の収穫体験】